



やぐもだい

令和6年9月2日
調布市立八雲台小学校
校長 上田 義孝
<http://www.chofu-schools.jp/yagumodai-sho/>

個性や能力を生かす

校長 上田 義孝

まだまだ厳しい残暑が続く中、本日から2学期が始まりました。熱中症や校舎修繕工事など、注意を払いながら安全・安心を第一に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

さてこの夏も暑く、思うように外出しにくい夏休みでしたが、先月まで行われていたパリオリンピック、現在開催中のパラリンピックには、連日テレビなどのメディアを通して、熱い声援を送っていた子どもたちも多かったと思います。大会期間中は毎日のように、選手からたくさんの勇気や感動をもらいました。心に残る名場面、名勝負がありました。選手たちの絶え間ない努力やスポーツでの学びが結晶となって、輝く瞬間でした。

様々なスポーツで活躍する選手の話を知ると、「私はできた（達成できた）時の喜びが大きいから、好きでいつも練習していた」とか「自分がこのスポーツが好きだから、チームみんなで心を一つに、コーチとともに頑張った」と言っています。繰り返しの練習でもうまくなり、悔しい思いをしたり、痛い思いをしたり、けがをしたり、といった様々な困難は、その目的が達成できた瞬間に「できた喜び」や、「達成した嬉しさ」で打ち勝つことができるのだと感じる話です。

ところで最近、子どもにスポーツや学習の高度な技術や能力を求めるがあまり、成長や学びの当事者である、子どもの考えを取り入れずに進めることがあると聞きました。保護者の考える子どもの進路や成長目標、さらには大人の都合に合わせて、コーチや先駆者などに、練習プログラムや学習システムを取り入れるよう申し入れ、子どもの成長や能力に合わない環境を作り出している状況、とのことです。

それは子どものもつ、潜在的な能力の開発を妨げるとともに、子どもの自主的な思考を遮断してしまいます。そして子どもの成長の芽を摘んでしまうことにもなりかねません。さらに、大人の考える目標まで上達しなかったり、思ったように成果が上がらなかったりすると、大人も子どもも、関係者の責任にして、できないことを他責にする傾向もあるそうです。

学びや成長を育む上で大事なことは、個々の能力や興味関心に基づいた、自分の目標の達成や、夢の実現に向けて、様々な練習・学習方法に取り組むとともに、課題解決の方法を探り、「その人が本来取り組むべき課題解決や目標達成にエネルギーを多く注げる状態」を作り出すことにあります。発達段階や今までに身に付けてきた技能、知識から、その人が今学ぶべきこと、考えるべきこと、身に付けるべきことに向かって取り組むこと、その人のエネルギーが注げる状態を作ることが大切と考えます。

学校では文部科学省の定めた学習指導要領に沿って、2学期も下のような子どもの資質・能力をバランスよく育成していきたいと考えています。

- 1 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
- 2 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
- 3 どのように社会・世界とかわかり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力・人間性等）

今後とも、保護者の皆様には様々なご理解ご協力をいただきながら、一人一人の子どもを大切に育てていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。